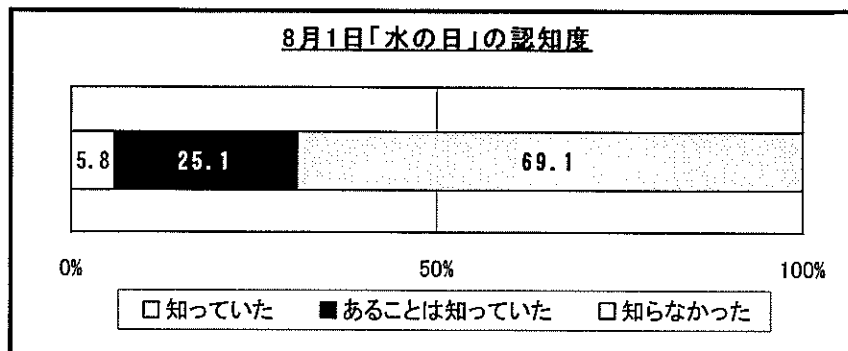


水にかかわる環境意識

Q.8月1日が「水の日」ということを知っていましたか？

◇7割近くが水の日があることさえ『知らなかった』

1957年に国土庁（現・国土交通省）が制定した「水の日」。かけがえのない資源である水を大切にしようという趣旨ですが、『知っている』はわずか5.8%にとどまり、7割近くが水の日があることさえ『知らなかった』という結果でした。



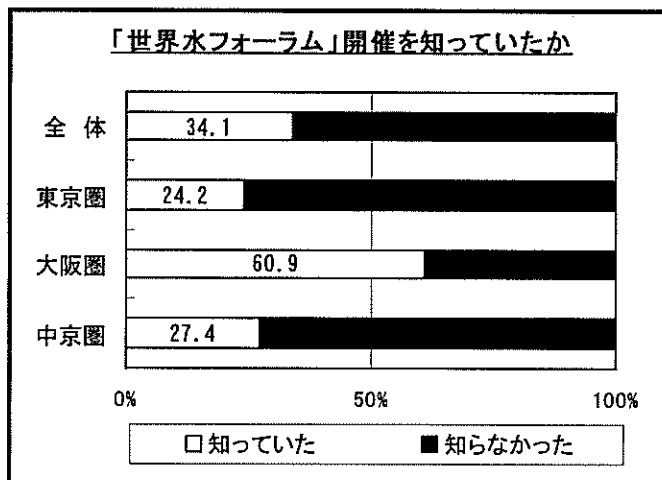
Q.今年の3月に「世界水フォーラム」が開催されたことを知っていましたか？

◇『知っていた』は34.1%にとどまる

昨年3月に滋賀・京都・大阪で開催された「第3回世界水フォーラム」。日本で初めての開催ということもあり、新聞などでも大きく取り上げられました。

ところがその認知率は34.1%にとどまり、必ずしも関心が高いとはいええない結果でした。

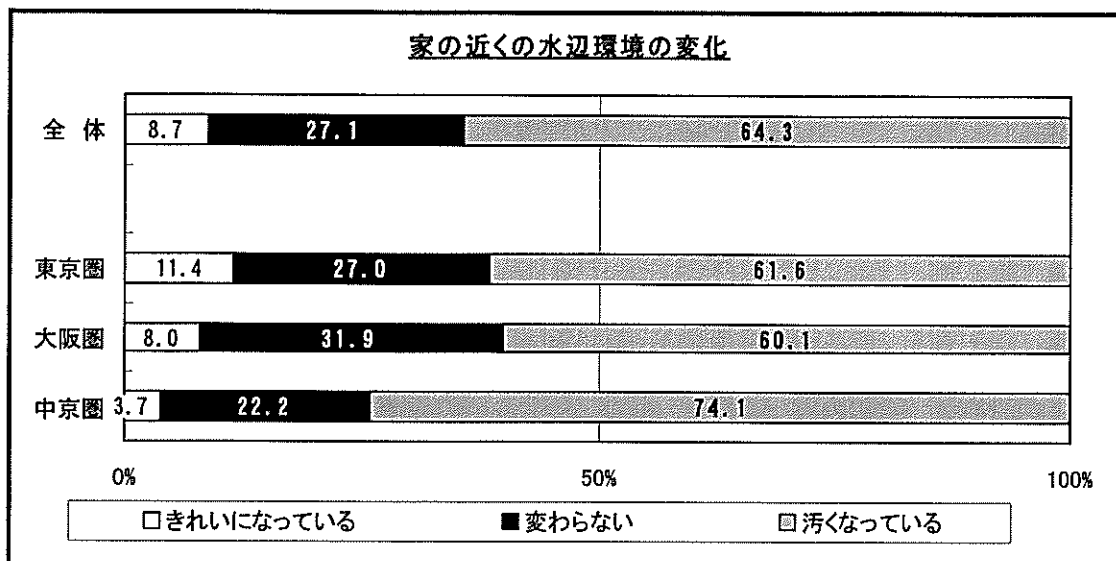
居住地別で見ると、東京圏・中京圏の認知率は3割以下なのに対して、開催地であった大阪圏では6割を超える高い認知率でした。



Q.あなたの家の近くの水辺環境はどのように変化していますか？

◇全体では64.3%が『汚くなっている』と回答

近くの水辺環境の変化について聞いたところ、6割以上が『汚くなっている』と回答。『きれいになっている』は8.7%にとどまりました。居住地別で見ると、東京圏の『きれいになっている』が1割を超えましたが、かつてあまりにも汚かったことの裏返しでしょうか。

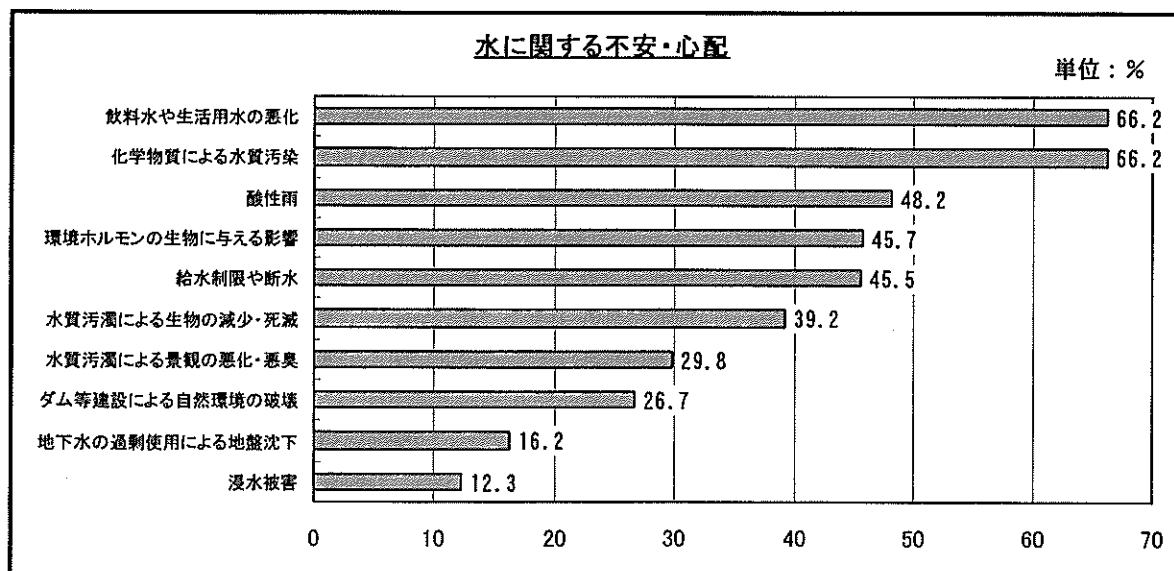


Q.水に関して日頃不安や心配を感じていることは？（13 択+その他/複数回答）

◇もっとも不安なのは『飲料水や生活用水の悪化』と『化学物質による水質汚染』

水に関して日頃から不安を感じていることを聞きました。

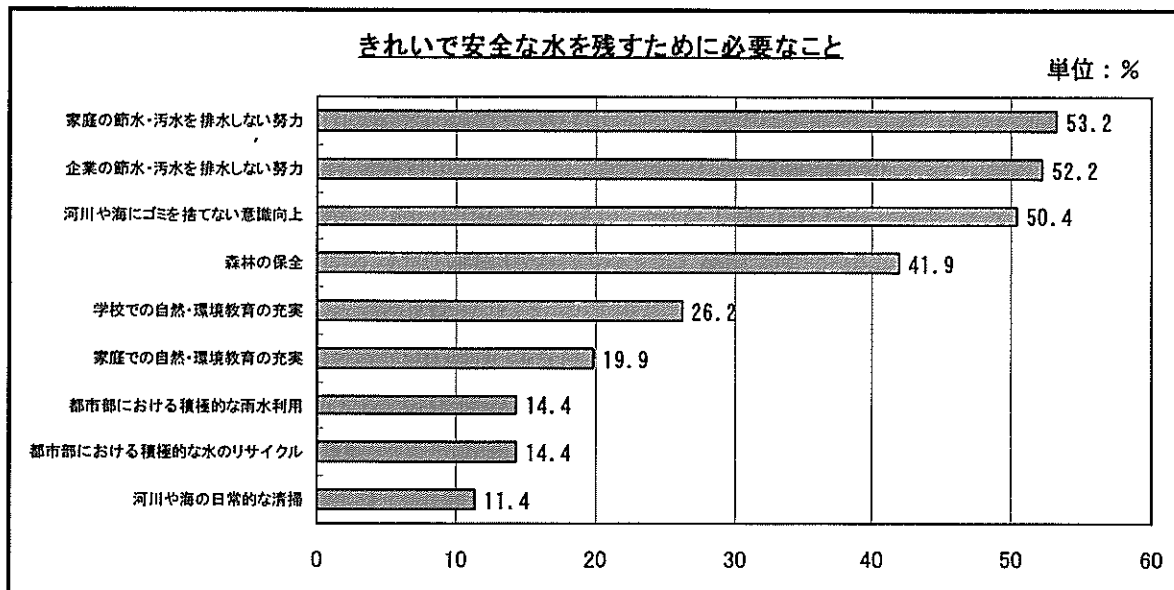
トップは66.2%で『飲料水や生活用水の悪化』と『化学物質による水質汚染』でした。以下、『酸性雨』（48.2%）、『環境ホルモンの生物に与える影響』（45.7%）、『給水制限や断水』（45.5%）などと続きました。



Q.きれいで安全な水を残すために必要なことは？（11 択＋その他／複数回答）

◇『家庭の節水・汚水を排水しない努力』がトップ

『家庭の節水・汚水を排水しない努力』（53.2%）、『企業の節水・汚水を排水しない努力』（52.2%）が小差で1位・2位に並びました。汚れた水を捨てないことが何よりも大切という結果になりました。



Q.あなたの家庭で行っている水質保全への配慮は？

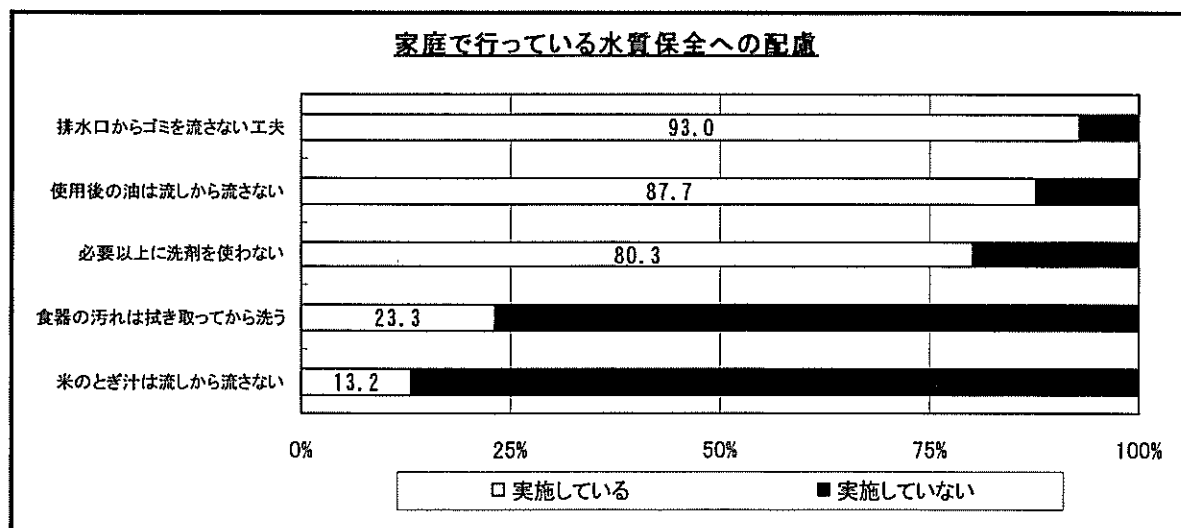
◇「排水口からゴミを流さない工夫」は9割以上の家庭で実施

家庭における水質保全への第一歩は、生活廃水を流さないように努力することです。

「排水口からゴミを流さない工夫」は9割以上の家庭で、「使用後の油を流してから流さない」

「必要以上に洗剤を使わない」は8割以上の家庭で実施していました。

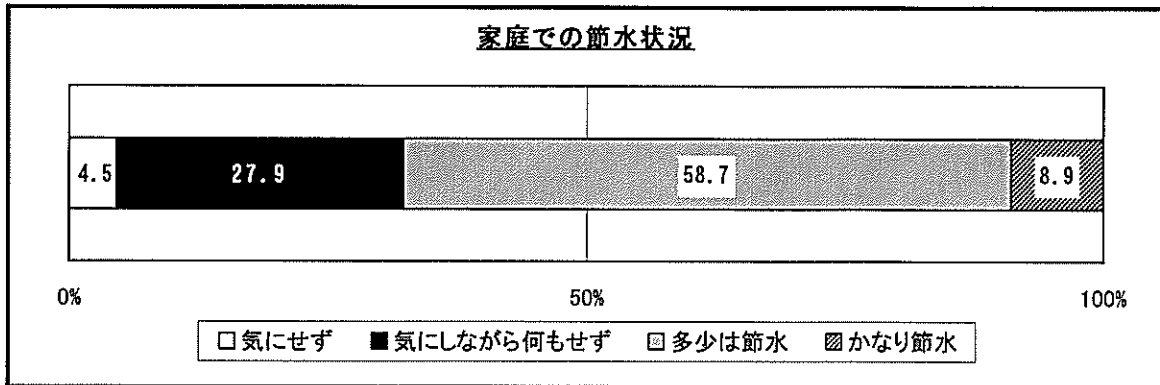
一方、洗剤や水の量を減らすことになる「食器の汚れは拭き取ってから洗う」は23.3%の実施率、川や湖の富栄養化対策になるといわれる「米のとぎ汁を流してから流さない」は13.2%と低い実施率でした。



Q.あなたの家庭ではどの程度節水していますか？

◇67.6%の家庭が、節水や水の使い回しを『かなり』あるいは『多少』している

家庭での節水や水の使いまわしについては、『かなりしている』が8.9%、『多少はしている』が58.7%で、7割弱の家庭が何らかの節水や水の再利用を行っているという結果になりました。

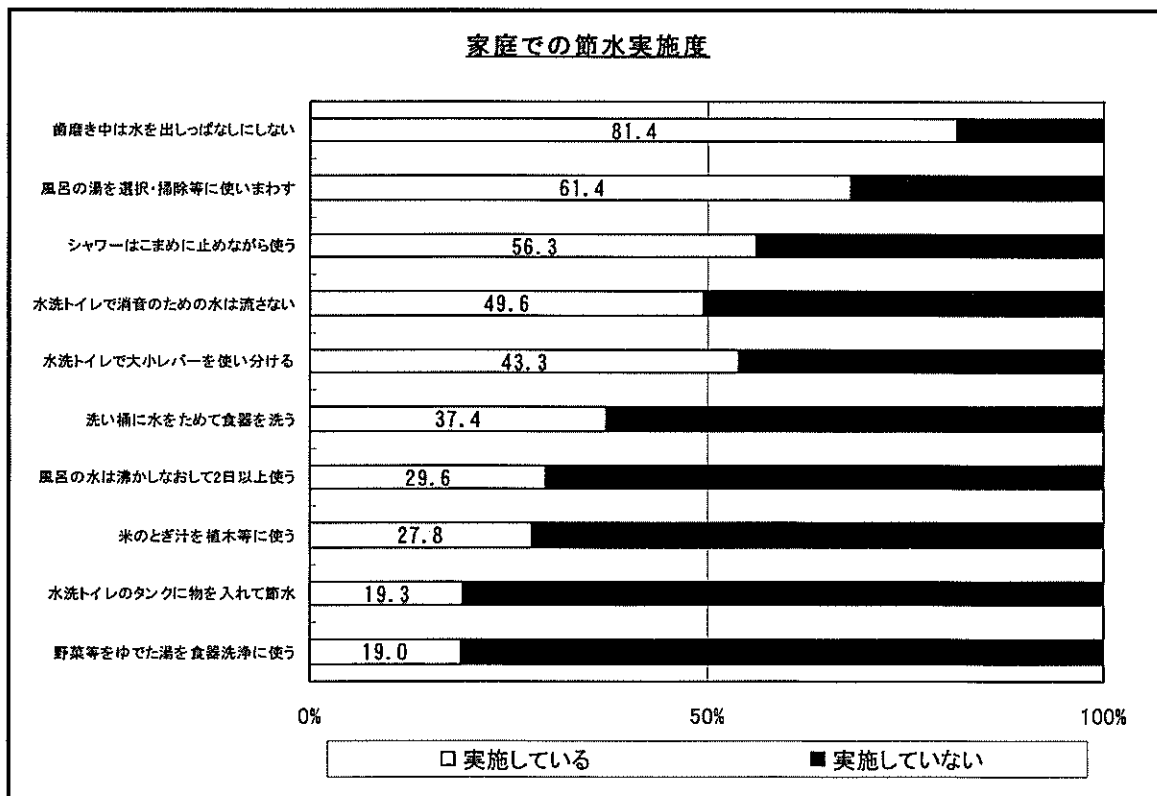


Q.あなたの家庭の節水方法は？

◇『歯磨き中の水は出しばなしにしない』は8割以上の家庭で実施

節水に効果がある10項目について、家庭での実施状況を聞きました。

もっとも実施率が高かったのが『歯磨き中の水は出しばなしにしない』で81.4%。『風呂のお湯を洗濯や掃除に使いまわす』(61.4%)、『シャワーはこまめに止めながら使う』(56.3%)も5割を超える実施率でした。比較的实施率が低かったのは『野菜をゆでた湯を食器洗浄等に使いまわす』(19.0%)、『水洗トイレのタンクに物を入れて節水する』(19.3%)などでした。



Q.水にかかわることで知っていること、経験のあることは？

◇半数に達してない『使っている水の水源を知っている』

◇『使った水の排水先を知っている』のは4人に1人

私たちの生活に1日たりとも欠かせない水道の水。ところが『使っている水の水源地を知っている』は半数に達しない46.8%にとどまりました。『使った水の排水先を知っている』はさらに少なく、おおよそ4人に1人の26.2%でした。

